

当該敷地の境界について

東側の境界の図示として、官官境界線の内側に道路境界線とありますが、市民会館の敷地として確定している境界線は官官境界線ですが、実際は内側の道路境界線を境に、市道の歩道として認定されており、建設可能範囲は道路境界線の内側となります。

南側の境界については、市道市民会館南線の東側は周辺的生活道として利用されていますが、市民会館の敷地となっています。
「阿南市道検討敷地」と表記している敷地は今後も道としての利用を計画しています。

北側の境界は、3項道路の内側までとします。